

世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会2011年推薦図書展

Barrier-free Picture Books from Around the World—IBBY Outstanding Books for Young People with Disabilities 2011

会期 | 2012年7月31日(火)～8月26日(日) 会期中の休館日 | 月曜日、8/15(資料整理休館日)
 会場 | 国際子ども図書館 ホール〔3階〕 開館時間 | 午前9時30分～午後5時
 主催 | 国立国会図書館国際子ども図書館、社団法人日本国際児童図書評議会 (<http://www.jbby.org/>)

◎ご利用について

展示資料は会場内で、ご自由に手にとってご覧ください。ご利用後はもとの場所にもどしてください。
 返却場所がわからないときは、カウンター職員におたずねください。

◎書誌事項について

No.は展示資料に表示されている番号に対応しています。
 書誌事項は、原則としてJBBY制作の本展パンフレットの表記に従って、書名、原題、著者名、発行国名、出版年、解説を掲載し、当館にも所蔵がある資料には請求記号を掲載しています。

◆手話・絵文字・BLISS・PCSつき絵本◆

1	はじめての手のおはなし					
	My first signs	[Michelle Anthony, Reyna Lindert]	アメリカ合衆国	NY: Scholastic	c2009	Y17-B13537
ボール、牛乳、ベッド、クラッカーなど、生活の身近なものを、大人や子どもが、アメリカ手話(ASL)で語っている写真絵本。手話を学び始めようとする幼い子どもたちにとちびつたりの本です。絵はさわると楽しい仕掛けになっています。						
2	ことばと手でおはなしして					
	Raccontare con le parole e con le mani	Bonomi, Marisa 文 Pietta, Cristina 絵	イタリア	Sinnos Soc. Coop. sociale ONLUS	2008	
4冊のうち2冊は、よく親しまれているわらべ歌、1冊は対話集、もう1冊は両親のためのガイドブックです。表情豊かなイラストレーションに、イタリア語、アラビア語、ヒンディー語、ウルドゥー語に加え、イタリア手話でもテキストが添えられています。生まれつき聞こえない子どもたちや、聞くことに困難がある子どもたちが、一般社会になじむのに大変役立つ本です。						
3	手のお話、聞いて!					
	Escucha mis manos	Cuevas, Alvarito 文 Ramírez, Raúl Ramón 写真	メキシコ	Ediciones Tecolote	2007	
10歳の少女カレンが、短い文で自分自身について手話と指文字で語っています。						
4	英語とスペイン語とアメリカ手話による むかしうた・わらべうた・あそびうた2					
	Classic songs, Rhymes and Activities in English, Spanish and ASL, Book 2	Katz, Jody R. 文 Krebs, Patricia 絵	アメリカ合衆国	Classic Tales'n Tunes LLC	2008	
15曲の伝統的な歌が収められた歌あそび集。英語とスペイン語とアメリカ手話であらわされ、さまざまな環境で育っている未就学の子どもたちが楽しめます。大きな字やカラフルな絵は、大人も子どもも楽しませてくれます。150枚以上の手話の写真が載っていて、幼い子どもたちのための手話についての助言や、スペイン語の発音、この本の使い方も付いています。						
5	アメリカ手話の童話 エンドウ豆の上に寝たお姫様 (DVD付)					
	ASL Tales: The Princess and the Pea	Rodrigues, Alicita Starr, Joseph 文 Hood, Judy 絵	アメリカ合衆国	ASL Tales	2008	YU81-B389
アンデルセン童話「エンドウ豆の上に寝たお姫様」が、視覚障害のある子どもたちのために、音声とアメリカ手話とで語られています。付属のDVDでは、パントマイムやジェスチャーとともに、芸術的に表現された絵とアメリカ手話を見ることができます。本と映像を同時に提供することで、聴覚障害の子どもも、物語の盛り上がりと一緒に体験できます。						
6	たのしい旅					
	Hauska Matka	Huikari, Susanna 文 Kolehmainen, Mika 絵	フィンランド	Lohipadon yksikkö	2010	
マルクスとペッカは親友同士。ある年の冬、彼らはおじさんのヴィリヨと一緒に、ラップランドに旅行にいきました。毎日、スキーを楽しみ、トナカイに乗ったり、すばらしいオーロラを見ることもできました。文章は易しく、ブリス記号が理解を助けます。文章に忠実なイラストレーションはカラフルで、生き生きとした動きが伝わってきます。						
7	赤ずきんちゃん					
	Cappuccetto Rosso	Bianchessi, Peppo 絵	イタリア	Unovonero edizioni	2010	
みんなが知っている「赤ずきんちゃん」。段差をつけてめくりやすく工夫されたボードブックで、わかりやすい言葉とPCS絵文字で語られています。文字を理解するにはまだ幼すぎたり、文字を読むことに困難さを持っていたり、イタリア語が母語でない人たちのために、PCS絵文字でキーワードをあらわし、その読みを助けています。						

◆点字つき絵本 さわる絵本◆

8	ちよつとこわいの				
	Ho un po' paura	Constantin, Laure 作	イタリア	Fed. Nazionale delle Istituzioni Pro Ciechi	2010
<p>子どもには、理屈なくこわいものがたくさんあります。ドアがバタンと閉まる音、怒鳴る声、階段、知らない道など……。この幼い子どものための美しいさわる絵本は、こわいものに、やさしいイメージを対比させています。たとえば、パパとママがそばにいる安心感、暖かい泡のお風呂、ほほをなでるそよ風、ぎゅっと抱きしめたテディベアの感触などです。文章は大きな文字と点字であらわされ、立体的なイラストレーションはシンプルでわかりやすくできています。</p>					

9	黒の本				
	El libro negro de los colores	Cottin, Menena 文 Faria, Rosana 絵	メキシコ	Ediciones Tecolote	2008
<p>2人の友だちについてのお話です。片方のトーマスは目が見えません。トーマスの友だちは、私たちに、トーマスがおったり、さわったり、聞いたり、なめたりして、いかに「色」を理解するかを教えてください。一方、見える私たちは、「色」を「見る」ことでしか理解できないのです。見える人を、「見えない(盲目)」世界に招待してくれる絵本です。</p>					

10	スパゲッティのジョーの冒険				
	Žga spaget gre v širni svet	Kermauner, Aksinja 文 Čoh, Zvonko 絵	スロベニア	Miš založba	2010
<p>なべから逃げ出したスパゲッティのジョーは、途中でリンゴに出くわします。リンゴは、突然現れたジョーを、自分を食べようとしている巨大なミミズだと勘違いして……。イラストレーションは簡潔で、登場するキャラクターは実物大で描かれています。この絵本は、見ても、さわっても、さらに匂いでも刺激され、五感に働きかけてきます。見える、見えないにかかわらず読者を楽しませてくれます。</p>					

11	風が吹いて				
	Soffio di vento / souffle de vent	Lodolo, Elisa 文 Rintala, Aune 絵	イタリア フランス	Fed. Nazionale delle Istituzioni Pro Ciechi / Les Doigts Qui Révent	2009
<p>ある朝、地球が深くため息をつくとき、小さな風の子が生まれました。絵本の中で、風の子は、3本の毛糸であらわされています。読者は、この毛糸をたどりながら、美しい山を駆け巡り、雲と遊び、家々をヒューヒュー走りぬけます。そして、最後に、幼い少女の耳にすべり込み、自分の冒険をささやきます。ボード紙とさわれる素材で作られた詩的で感動的な絵本です。</p>					

12	点と点が集まって				
	Jeomi moyeu moyeu	Um, Jeong-soon 作	韓国	Changbi Publishers	2008
<p>蛇腹のようなこの絵本では、点と点が集まって1本の線になり、その線が集まってひとつの形を作ります。その点や線や形を指でなぞりながら、子どもたちは無数のお話を自分で作って楽しむことができます。視覚障害のある子どもが、形というものは点や線が組み合わさってできていることを理解するのを助けます。</p>					

13	きょうはみんなでクマがりだ				
	Goin' on a Bear Hunt	Wright, Suzette 作	アメリカ合衆国	American Printing House for the Blind, Inc.	2002 (原書Y17-B9493、翻訳書Y18-5420)
<p>家族が森を抜けて、クマを見つけに行くという昔から親しまれているお話。たくさんのおくり返しがあり、幼い読者たちが親しみやすくできています。森を抜けていく道のりは、ページをまたいで指でたどれるようになっていきます。読者は、大きなクマに出会って、家族が家に逃げ帰るまで、この線をたどって楽しめます。クマや家や池なども、さわれる絵になっています。</p>					

◆布の絵本◆

14	おでかけプー！				
		のぐちみつよ 作	日本	ぐるーぶ・もこもこ	1991
<p>5匹のブタの家族が、車に乗って出かけるといふ明瞭なストーリー。どんな年齢の読者も楽しむことができる、丁寧に手作りされた布の絵本です。特に楽しいのは、ブタの鼻を押すと、プーと鳴くことです。</p>					

15	abc				
	abc	Rudman, Lynette 作	南アフリカ共和国・イタリア・フランス	I read with my hands	2010
<p>アルファベットの初めの5文字が、点字と拡大文字と刺繍であらわされています。刺繍は、盛り上がっていて、文字の形がなぞれるようになっていきます。点字は、玉刺繍と小さなビーズで表現されています。右側のページには、そのアルファベットで始まる物の名前が、拡大文字と点字で書かれ、立体的に形を確かめられるような工夫がされています。</p>					

◆見え方に特性のある子どものための絵本◆

16	レオのおてつだい					
	Leo deckt den Tisch	Linder, Christin Stillhart, Regula 文 Berüter, Gabi 絵	スイス	Edition Bentheim	2007	Y17-B13551
レオがお母さんのお手伝いをする様子を描いた文字の無い絵本です。視覚に障害のある子どもたちのために、見ることを刺激し、読むことが楽しくなるように作られています。黒く太い輪郭と、鮮やかな色使いで描かれたイラストレーションは、見ることが困難な子どもでも、見えやすく工夫されています。余計な細かい線は無く、主人公レオの明快な表情が、ストーリーを追いやすくなっています。						

◆やさしく読める図書◆

17	恐れ					
	Redd	Fiske, Anna	ノルウェー	Solum Forlag	2009	
「怒り」「愛」「恥ずかしさ」に続く「感情シリーズ」の第4弾。子ども向けに作られた図書ですが、あらゆる年齢層に受け入れられるでしょう。私たちに恐れを引き起こす、さまざまなものを示しながら、「誰でも怖いものはあるし、みんな同じものを怖がる場合が多い。でも、恐れと危険は違うもので、恐れとは感情のひとつなのだ」ということを伝えています。ユーモラスなイラストレーションは、大人にも子どもにも好まれ、文章は簡潔で、ポイントを上手くついています。						

18	気をつけてリーネ (CD付)					
	Pass deg, Line!	Kvam, Marit Hoem 作 Henriksen, Cici 語り	ノルウェー	Lydbokforlaget	2009	
一人暮らしをしている20歳のリーネは、ある日ベッレに出会います。彼は甘い優しい言葉でリーネに話しかけ、「家まで送りたい」と言います。リーネは両親からくり返し「知らない人についていってはいけない」と言われてきましたが、ベッレはとてもいい人に見えました。ところが……。この本は、信じることと現実起きてしまうこと、という難しいテーマをわかりやすい言葉と概念で扱っています。ゆっくりした明快なナレーションのCDが付いています。						

19	校庭の愛					
	Valituntirakkautta	Marttinen, Tittamari 文 Salminen, Aiju 絵	フィンランド	Kustannus Oy Pieni Karhu	2007	
鮮明で繊細な13の物語。どの物語も、若者が夢中になったり心を痛めたりする問題について描かれています。文章は、やさしく読めるフィンランド語として開発されている Selko-language で書かれていますので、ディスレクシア（読字障害）や知的障害者、フィンランド語を第2言語として学んでいる人たちにとって、読みやすい本になっています。						

◆一般市販絵本◆

20	ウィローのささやき声					
	Willow's whispers	Button, Lana 文 Howells, Tania 絵	カナダ	Kids Can Press	2010	
ウィローの声はとても小さいので、誰も聞き取ることができません。そのため、ウィローは誤解されたり失望したりするのですが、自分では声や話し方を変えることができません。父親は、彼女を暖かく見守り、いつもこう言います。「おまえの中のどこかに、大きな強い声がかくれているんだよ、そして、いつか出てくるんだよ」。やがて、父親が言ったとおり、ウィローは自分の声を見つけます。同時に勇気も見つけます。						

21	だいじょうぶ					
	괜찮아 (Guaenchana)	Choi, Sook-hee 作	韓国	Woongjin Junior	2005	Y17-AZ5443
小さなアリからキリンにいたるまで、すべての人は、一人ひとりユニークでかけがえのない存在です。人が幸せを感じるような心温まる言葉にふさわしい、魅力的で鮮やかなイラストレーションのこの絵本は、韓国の小さな子どもたちにとっても愛されています。						

22	私のカバ					
	Mon hippopotame	Coat, Janik 作	フランス	Autrement Jeunesse	2010	Y17-B13586
しっかりした厚紙で作られた大きな本です。まさにカバにぴったりです。完璧にデザイン化されたカバたちが、「大きいー小さい」「あるーない」「水玉模様ー縞模様」「すべすべーざらざら」など、対照的に描かれています。それぞれのカバは、ユーモアたっぷりで、さまざまな創意工夫がこらされ、遊びながら簡単に楽しめる反対言葉の世界を教えてください。						

23	わたしとあなた					
	Me and you	Côté, Geneviève 作	カナダ	Kids Can Press	2009	
2人の、まるで違うタイプの友だちが、お互いに相手みたいだったらどんなだろうと考えます。そして、それぞれが自分らしくあることが、何よりすてきなことだと気がつきます。友情や個性について、優しいまなざしで語られているこの本は、すべての年代に訴えるものがあります。特に、ありのままに愛されたい、自分が特別な存在だと信じたい若い世代には、自信を与えることでしょう。						

24	鍵	La clé	Delaunoy, Angéle 文 Delezenne, Christine 絵	カナダ	Éditions de l'Isatis	2008	Y17-B11791
		幸せに暮らしていた家族が、戦争のために、子どもや庭の花々がすくすくと育っていた我が家を捨てなくてはならなくなりました。おばあさんは、家の鍵を自分のペールの下に隠し、だれもが、いつの日かまたこの家に戻ってきたいと願っていました。けれども、時が経つにつれ、望みはだんだんと消えていくのでした。散文詩風の文章は、家を追われた少女の運命を、簡潔に、かつ力強く描いています。					

25	私の家の前で	In front of my house	Dubuc, Marianne 作	カナダ	Kids Can Press	2010	Y17-B13407
		子どもたちの自由な連想の世界を描いた絵本です。小さな丘の我が家の前から始まって、バラの木、小鳥、窓……と、連想はとめどなく続き、物語の中や、山や洞窟や、宇宙や海まで広がって、最後にまた、小さな丘の我が家へと帰ってきます。それは、限りなく驚きに満ちた空想の旅です。魅力的なイラストレーションにシンプルな文が添えられています。					

26	しかけ絵本 大きさ	Flapstastic sizes	Gardner, Charlie 作	アメリカ合衆国	DK Pub.	2009	Y17-B13536
		色鮮やかな仕掛け絵本です。見開きのページに、シンプルな写真と、その特徴を表現する単語が記されています。フラップ（めくりページ）をめくると、反対の意味の単語が、写真とともに現れます。たとえば、「象」の写真のとなりには大きな文字で「big（大きい）」と書かれていて、フラップをめくると、「ひよこ」の写真と小さな「small（小さい）」という文字が出てきます。楽しみながら大きさの概念を知ることができます。					

27	月人石：乾千恵の書の絵本	乾千恵 書 谷川俊太郎 文 川島敏生 写真	日本	福音館書店	2005	Y17-N05-H107
		日本の漢字は、物の形から作られる象形文字です。勢いのある漢字の書は、まるで生きているように見えます。この写真絵本は、毛筆で書かれた躍動感のある漢字と、その漢字が表わしているモノの写真、シンプルで美しい言葉でできています。巻末には、絵本の中に出てきた13の漢字（扉猫風音馬影水石火山蟻月人）を、19の言語に訳した一覧表が付けてます。				

28	私と私の友だち	Man va dostanam	Khalatbaree, Farideh 文 Mafakheri, Ali 絵	イラン	Shabaviz	2006	
		テヘランに住む少年は、毎日午後3時半になると、世界中の友だちとインターネットでチャットをします。アラスカやメキシコの友だちは、あまりにも朝早いので、まだ寝ています。イギリスの友だちは、いつでもビッグ・ベンのお話を、イタリアの友だちはおいしいピザを作ったことを、中国の友だちは中国について話します。オーストラリアからは、カンガルーの写真が届きます。ニュージーランドは、もう寝る時間です。シンプルな文章とイラストレーションで、世界の時差や、文化の違いを知ることができます。					

29	スプーク	Spork	Maclear, Kyo 文 Arsenault, Isabelle 絵	カナダ	Kids Can Press	2010	Y17-B13484
		スプークはまわりのみんなと少し違ってしています。台所にいるみんなは、スプーンはスプーンで、フォークはフォークです。スプーンとフォーク両方の特徴を持つスプークは、めずらしい存在で、なかなか食事のときに使ってもらえません。しかたなくスプークはひきだしの中で暮らすのですが、あるとき、スプーンやフォークをきまり通りに使わない人によって、受け入れられていると感ずみます。2つの個性をあわせ持ち、まわりの環境になじめていないと感じたり、自分の居場所について悩んだりしている人のお話です。					

30	オンニのリサイクル	Onni-pojan kierratyskirja	Pelliccioni, Sanna 作	フィンランド	Minerva Kustannus Oy	2009	
		小さいオンニの日常を描いたシリーズの1冊。オンニは朝ごはんがすむと、ごみを分別します。ある日、オンニとお父さんは、近くのゴミ収集所で段ボール箱をひとつ見つけ、それでヨットを作ることにしました。楽しい文章と絵で、子どもの視点から、リサイクルというものを描いています。大きめの字、明瞭な形、コントラストのはっきりした色使いなど、障害のある子どもも、そうでない子どもも楽しめる本です。					

31	私、今こう感じてるの！	I've got a feeling!	Reeder, Stephanie Owen 作	オーストラリア	National Library of Australia	2010	Y17-B13482
		感情と表情を覚える本です。左のページには、日常おこりうるさまざまな状況が書かれています。そして「私、どんなふうに見える？」の問いかけが。右ページのフラップ（めくりページ）をめくると、表情豊かな大きな顔の絵と、その感情を表現する言葉があります。子どもたちに自身の感情を認識させ、他の人の感情を理解することを助けます。特に、発達障害の子どもには、顔の表情から相手の気持ちを読み取ることを知る手掛かりとなるでしょう。					

32	緑の子羊の足音					
	Sedā-ye pā-ye bozghāle-hā-ye-sabz	Taghdis, Susan 文 Vafaiyan, Marjan 絵	イラン	Shabaviz	2007	
病気で外に出られないビタですが、空想の世界では、広い草原で羊たちと遊んでいます。ある日、アパートの上の階から聞こえる騒音で目がさめたビタは、文句を言いにいくというお父さんについて行き、ひとりの小さな男の子に出会います。ビタはその子に羊の話をし、友だちになった2人は、自分たちで考えた羊ゲームで遊びます。この心理的な意味合いの強いお話は、現実と非現実の間を行ったり来たりします。細部にこだわった子どものような絵が、読者が自分のストーリーを作るきっかけを与えます。						

33	まるまるまるのほん					
	Un livre	Tullet, Hervé 作	フランス	Edtions Bayard	2010	(邦訳書Y18-N10-J180)
読み手が参加することで、本を作っていく絵本です。この本の主役は黄色の丸ですが、読む人次第で、それが変化していきます。強く押してページをめくると、新しい黄色の丸が現れます。こすって、軽く押して、ゆらすと、あれあれ、どこかにいっちゃった……。黄色の丸は読み手の操作で常に動きが変わります。						

◆「障害」が描かれている図書◆

34	おじいちゃんのピアノアルツハイマー病になっても					
	Grandpa's music : a story about Alzheimer's	Acheson, Alison 文 Farnsworth, Bill 絵	アメリカ合衆国	Albert Whitman & Company	2009	Y17-B13496
おじいちゃんと同居することになり、キャリアの両親は家族の役割分担を決めました。キャリアはおじいちゃんにも仕事を考えてあげます。庭の手入れ、おいもの皮むき、パン生地をこねること、それから……。そう、音楽。ピアノに合わせて歌うのが、おじいちゃんとキャリアの楽しみになりました。おじいちゃんの物忘れはどんどんひどくなり、やがてピアノの場所さえわからなくなりました。それでも、おじいちゃんの指はピアノの弾き方を覚えていて、楽譜の見えない暗い部屋でも昔覚えた曲を弾くことができます。						

35	ジェジュ・ベッツ					
	Jesus Betz	Bernard, Fred 文 Roca, François 絵	フランス	Seuil Jeunesse	2001	
ジェジュは生まれつき両方の手足がありませんでしたが、ソプラノの素晴らしい歌声と記憶力の持ち主でした。この本は、ジェジュが母親にあてた手紙をもとに作られました。苦難にみちた、時には残酷な日々が綴られています。彼は捕鯨船に連れ去られ、5年間、鯨を見つけるために、マストに縛り付けられていました。彼が片方の目を失うと、岸に置き去りにされ、酒場を流す楽団に拾われます。やがてサーカスに加わったジェジュは、彼を愛してくれる空中ブランコ乗りのスマに出会います。						

36	ピピアナの指笛					
	Bibiana píská na prsty	Binar, Ivan 文 Podzimková, Veronika 絵	チェコ共和国	Meander Publishing	2009	
ピピアナは、生前、おばあちゃんに指笛の吹き方を教わりました。自動車事故で家族を亡くし、車いす生活を送るピピアナは、うまく自分の障害とつきあって暮らしていますが、時には悲しくて寂しい思いをします。何気なく指笛を吹いたピピアナは、おばあちゃんの人形劇のおとぎ話の世界に入りこみ、登場人物たちに出会います。作者は、障害がある子にもない子にも大切なメッセージを伝えています。現実の生活には価値があり、夢は、現実からの逃避というより勇気を与えてくれるものだと。						

37	ことばはなく					
	There are no words	Brown, Mary Calhoun 作	アメリカ合衆国	Lucky Press LLC	2010	Y8-B11221
12歳の少女ジャクソンは、祖父母の愛情をたっぷり受けて暮らしていますが、自閉症で話すことができません。ある日の夕方、ジャクソンは、突然1918年の世界に迷い込みます。不思議なことに、そこではジャクソンは話すことができ、そして、彼女は、おじいさんの親友のオリバーを電車の事故から救い出せるただひとりの人間でした。最後に、ジャクソンは、普通の話せる人として1918年に留まるか、祖父母が愛してくれる話せない女の子に戻るかを選ばねばなりません。						

38	温室					
	The glasshouse	Collins, Paul 文 Thompson, Jo 絵	オーストラリア	Ford Street	2010	
クララは自分自身の世界をもっています。そこでは全てが心地よく安全です。彼女のカボチャは完璧で、傷もなく、おいしくて、滑らかです。彼女の温室には、虫も鳥もきません。クララはその中でとても幸せで、外の世界を気にしませんでした。ある日、ひとりの少年がやってきて、クララは少しずつ、彼女の世界が決して完璧なものではなく、よりよく生きていくためには、周囲を受け入れ、歩み寄らねばならないということに気付いていきます。						

39	しあわせもの					
	The lucky one	Cowley, Deborah 文 Knowles, Kathy 写真	カナダ	Osu Children's Library Fund	2008	
実話をもとにした物語。マサウッドは、生まれつき下肢が曲がっていて、手と膝でいざるか、兄さんに背負ってもらわなければならないと、移動することもできません。ある日、マサウッドは、図書館でひとりのカメラマンに出会います。カメラマンは、マサウッドに映画に出演するよう頼み、彼を歩けるようにしたいと申し出ます。何度も手術を繰り返して、何か月も痛みを耐えて、マサウッドは家に帰ってきました。杖は必要ですが、これからは自分の足で立って、お母さんを手伝い、ひとりで学校にも行けるようになるでしょう。						

40	小さなきいろいピン					
	Une petite bouteille jaune	Delaunoy, Angèle 文 Delezenne, Christine 絵	カナダ	Éditions de l'Isatis	2010	
<p>気がついたときにはもう手遅れでした。アフマドは、草に半分かくれていた黄色いピンをひろってしまったのです。それは太陽の光を反射して、黄金のように輝いて……。マワとアフマドにとって、生まれてはじめて見るものでした。地雷により、2人は体と心に深い傷を負ってしまいます。それでもなお、2人は勇気を失わず、再び生きることを学ぶのです。この作品は、対地雷によって傷ついた人々をサポートする非営利団体、ハンディキャップ・インターナショナルと協力して出版されました。</p>						

41	暗やみの中のきらめき ——ルイ・ブライユと点字のはなし					
	Väläys pimeässä - Louis Braille ja pistekirjoituksen tarina	Dieckmann, Maijalisa 作	フィンランド	BTJ Kustannus Oy	2010	
<p>レオは、フィンランドの小学校に通う目の不自由な少年です。レオの担任の先生は、クラスみんなに、200年ほど前のパリで暮らしていたルイ・ブライユという少年の話をします。ルイもまた目が不自由で、盲学校に入っていました。ひときわ才能に恵まれ、学びたいという熱意にあふれた生徒でした。この作品は、点字という、視覚に障害がある人々のための新しい文字を、ルイがどのようにして思いつき、創り上げたのか教えてくれます。レオとルイという2人の少年がそれぞれに挑戦する姿を、読者は比べてみるができます。</p>						

42	私の気持ちを知って					
	Out of my mind	Draper, Sharon M. 作	アメリカ合衆国	Atheneum Books for Young Readers	2010	
<p>11歳のメロディーは、脳性まひで言語障害があるため、学校の先生からは知的障害も疑われています。ある時、メロディーの両親は、考えていることや話したいことをパソコンに打ち込むと音声に変換してくれるMedi-talkerという機械を買ってきます。メロディーがそれを使うと、周囲の人たちは、彼女の頭のよさに気づき始めます。ついに、メロディーがクイズチームの有力メンバーになると、人々は、身体的な状態が知的遅れを引き起こすとは限らないということを理解するのです。</p>						

43	白いツル (サムライキッズシリーズ1)					
	White Crane	Fussell, Sandy 文 James, Rhian Nest 絵	オーストラリア	Walker Books Australia	2008	
<p>ニヤが鏡をのぞくと、自分自身の魂の象徴である「白いツル」が見えます。1本足のニヤは、日本のサムライになることを夢見ていますが、ほとんどのサムライ学校は「体の不自由な応募者」の入学を許してくれません。ある日、先生から、コックローチ流を学ばないかという誘いが来て、ニヤは、肉体的な鍛錬だけでなく、恐ろしい敵と戦うため、「小さなコックローチ」としての精神も鍛えていきます。チームワークを通して、外見的には不利に見える生徒たちが、自分でも信じられないほどの能力を発見していきます。</p>						

44	私の音のない世界					
	My silent world	Hilton, Nette 文 Agostino, Vincent 絵	オーストラリア	Lothian, Hachette Children's Books	2009	Y17-B12585
<p>少女は音のない世界に生きています。その世界は彼女にとって優しく、美しく、安全です。彼女は、自身の音のない世界を愛する気持ちと、人工内耳によって音を知る喜びの両方を大切にしています。印象的なイラストレーションは、躍動感やエネルギーに満ち、活字をイラストレーションに取り入れることで、音との出会いや交流を表現しています。</p>						

45	自分の足で立つために ——ポリオにかかったノレン・ロバートソンの日記					
	To stand on my own : The Polio Epidemic Diary of Noreen Robertson	Haworth-Attard, Barbara 作	カナダ	Scholastic Canada Ltd.	2010	Y8-B11218
<p>ヨーロッパが緊張に包まれた1937年、大恐慌とポリオの流行がカナダを襲いました。当時12歳だったノレン・ロバートソンは、夏休みに母親から日記を強く勧められます。はじめのうちは気が進まずに書いていた日記でしたが、ポリオにかかり麻痺が出てからは、心の奥底にある恐怖を日記と分かり合い、人生の意味を深く考え、予期せぬ喜びなどを打ち明けるようになります。あとがきや記録写真もあり、ポリオという病気や治療に対する理解をより深めることができます。</p>						

46	異星人					
	Kosmita	Jedrzejewska-Wróbel, Roksana 文 Jung, Jona 絵	ポーランド	Fundacja ING Dzieciom	2009	
<p>オラが、生まれるのを心待ちにしていた弟は、カスペルと名付けられましたが、ほかの子とはちょっと違っていました。変わった反応や落ち着きのない行動、人と関係を作ることがむずかしいのです。まるで異星人……。唯一カスペルを理解できるのは、彼の「守護神」だけでした。カスペルは、守護神に宛て、いかに自分が人と違うかについて手紙を書きます。自閉症の子どもをもつ家族が、彼らの世界をよく理解し、よりよい支援ができるよう、読書セラピープロジェクトのひとつとして出版されました。</p>						

47	トリーとヘビの王子 (トリーの冒険シリーズ4)					
	Torrie & the Snake-Prince	Johansen, K. V. 文 Delezenne, Christine 絵	カナダ	Annick Press	2007	Y8-B11217
<p>先天性内反足のためなのか、レンは赤ん坊のころ、孤児院に捨てられました。物売りをしながら、山々をぶらぶら歩きまわる自由な生活を気に入っています。しかし、「何か」が足りないとも感じていました。仲間のトリーは、吟遊詩人のルークフェザーとともに、レンのなかにある「何か」を見つけだし、最近誘拐されたライアシス王子を救う冒険に引き入れます。レンは冒険の途中で、自分の驚くべき真実を発見します。その真実によってライアシス王子は無事に助け出され、レンは新たな魔法の道へと向かうことになります。</p>						

48	内戦をくぐりぬけて					
	The bite of the mango	Kamara, Mariatu / McClelland, Susan 作	カナダ	Annick Press	2008	Y3-B300
<p>著者マリアトゥ・カマラは、母国シエラレオネで、貧しくとも互いに助け合って暮らしていました。ところが、国中を巻き込んだ残酷な内戦が、マリアトゥの人生を決定的に変えてしまいました。反乱軍が村を襲撃し、彼女の両手首を切り落としたのです。マリアトゥは奇跡的に生きのびました。虐待後、初めて口にした食べ物、マンゴーの甘い汁が、彼女に「生きたい」と強く願わせたのです。控えめながらパワフルな文章で、勇気と希望、虐げられた人々の権利擁護について語っています。「確かにわたしには両手はありません。でも、声ならあります。」</p>						

49	虹					
	Mujigae	Kim, Jinki 文 Kim, Jaehong 絵	韓国	Prони Books Inc.	2007	
<p>目の見えない母親と目の見える娘は、さまざまな色によって、互いの感情を共有します。赤は、母のことをわかられて変わる娘の頬の色。橙は、母が作るろうそくの炎の色。黄は、娘の好きな花の色。緑は、2人で探す庭の四葉のクローバーの色。青は、母が幼いころに見て覚えている空の色、藍は母の故郷の海の色。そして紫は、母と娘が互いに見せ合う想像の場所の色。母親の目は見えませんが、心の中で、娘と通じ合う虹を見えています。その方法が目であろうと心であろうと、愛を知っていれば虹を見ることはできるのです。</p>						

50	おこだでませんように					
		くすのきしげのり 作 石井聖岳 絵	日本	小学館	2008	Y17-N08- J797
<p>どこにでも、手がかかり大人を困らせる子どもがいます。大人の都合のいいように動かない子どもは「問題な」子どもとしてレッテルを貼られがちです。いつもおこられてばかり、言い訳をしてもどうせまたおこられるだけ……。本の表紙には、目に涙を浮かべて、言葉を飲み込む男の子の顔が大きく描かれています。おこられ続ける少年の心の中の、ギリギリの叫びを、先生やお母さんは、どう受け止めてくれたのでしょうか。</p>						

51	鳥のように自由に					
	Free as a bird	McMurphy-Barber, Gina 作	カナダ	Dundurn Press	2010	
<p>ダウン症の8歳のルビーは、愛情深く面倒をみてくれた祖母が突然亡くなると、すぐに母親とその再婚相手によって寄宿学校へと連れていかれました。母親たちは娘を学校に入れたまま、ほとんど会いになど来ません。窮屈なへやで孤立し、何もすることのないルビーは、やがて退行していきます。話さなくなり、嘔んだり叫んだり、引っ掻いたりすることで会話をするようになってしまうのです。しかし、希望を失いかけたとき、片足でも上手にえさをとり、邪魔する仲間を追い払うカラスの忍耐と勇気に出会い、彼女の心も、鳥のように、自由になることができました。</p>						

52	僕はあきらめない					
	Boy in motion	Manson, Ainslie 文 Benoit, René 絵	カナダ	Greystone Books	2007	
<p>リック・ハンセンは片時もじっとしていない少年でした。スポーツは何でも好きでしたが、いちばんの趣味は釣りでした。ある日、釣りの帰りに乗せてもらったトラックが急カーブを曲がりきれず、事故を起こしてしまいます。その日からリックの生活は一変しました。しかし、車椅子に乗ったリックは、釣りもバレーやバスケットも続けられる、どんな夢もあきらめる必要はない、と身をもって示しました。困難を克服した勇気の物語は、子どもたちに感動と希望を与えてくれます。</p>						

53	きみとぼくのたんじょうび					
	Ein Geburtstag	Meissner-Johannknecht, Doris 文 Kemmler, Melanie 絵	スイス	Bajazzo Verlag	2007	Y17-B11712
<p>主人公は双子の男の子。そのうちひとりには重い障害を抱えていて、家族と離れて暮らしていますが、誕生日には毎年うちに帰り、家族みんなでお祝いします。誕生日の前日、両親と暮らしているほうの子は、心をこめて部屋を飾りつけます。「お気に入りの音楽を聞いて、大好きなゲームをして遊ぼうね」と、心の中でそう話しかけながら、いつも思うことがありました……。体が不自由なのが、なぜぼくじゃなくて、きみなんだろう？</p>						

54	ピエ・ドウ・ピュス (ノミの足)					
	Pied-de-Puce	Nicolas, Sylvie 文 Arbona, Marion 絵	カナダ	Éditions Trampoline	2009	
<p>主人公はピエ・ドウ・ピュス (ノミの足) と呼ばれる女の子。ピエ・ドウ・ピュスは言葉がうまく出ません。でも、フェシリアおばさんは、どうやって人に気持ちを伝えればいいかをやさしく教えてくれます。この日、先生がせっかく彼女の絵に「よくできました」のおひさまのスタンプをくれたのに、親友のアレクシーナがそれを「×」で消してしまいました。おばさんはくしゃくしゃになった絵をきれいにのばし、「×」の上に小さな花をはりました。壁にかかった絵を見て、ピエ・ドウ・ピュスは言います。「おばさん……だ、だいすき」</p>						

55	ボールの音に耳をすまして					
	Keep your ear on the ball	Petrillo, Genevieve 文 Lyon, Lea 絵	アメリカ合衆国	Tilbury House	2007	Y17-B13396
<p>転校生のデイヴィは目が見えませんが、助けの手を差し伸べられるたびに、こう答えます。「ありがとう、でもだいじょうぶだから」。彼は点字で読み書きもし、工作や音楽もこなし、何でもひとりで行えることを周囲に示します。でもキックベースでは、ボールを何度もけり損ねたうえに一塁手を踏みつけて、チームからはざれされます。お互いにもどかしさと傷ついた思いを募らせませんが、やがて、友だちはデイヴィの自立心を尊重し、彼のできることを試合に生かすようになりす。デイヴィもまた、周囲の助けを受け入れていくことを学んでいきます。人生の成功は自立と相互依存のバランスによって決まるのだと教えてくれます。</p>						

56	あたし飛んでみたいの				
	The girl who wanted to fly	Rivlin, L. 作	イギリス	College Publications	2009
<p>モー・タムワースは成績優秀、強い意志とユーモアの持ち主でしたが、8歳の時、事故に遭い、心身に深い傷を負ってしまいます。14歳になった今、モーの心の中は、不自由な体に対する腹立ちと苦悩、嫌悪感でいっぱい、学校では他の生徒をいじめて、退学寸前に。そんなある日、リハビリとして乗馬を勧められます。馬に乗ってみると坐骨に激痛が走りますが、ダウン症の若い女性トリシュに片鞍乗りを提案され、ついにジャンプを成功させるのです。障害に対する自分の態度を見つめ直したモーは、以前より自信を持って行動するようになり、精神的にも成長していきます。</p>					

57	氷の地				
	Terre de glaces	Sauriol, Louise-Michelle 作	カナダ	Les editions du soleil de minuit	2002
<p>アミーナは、美術のコンテストに優勝しました。優勝の特典として、1週間、北極でイヌイットと暮らすことになりました。重度の聴覚障害者で、湾岸戦争から逃れるためにカナダに渡ってきたアミーナにとって、格別わくわくする経験でした。この本は異文化交流とともに、自然の猛威とそれに立ち向かう人間の力が描かれています。物語のなかで語られる話により、読者は障害をもって生きる意味を学ぶでしょう。また、若者の恋愛や、その難しさ、人を信じる大切さも語られています。</p>					

58	リーコとオスカーともっと深い影				
	Rico, Oskar und die Tieferschatten	Steinhöfel, Andreas 文 Schössow, Peter 絵	ドイツ	Carlsen Verlag	2008 Y9-N10-J137
<p>リーコは、特別支援学校に通う男の子。自分のことを「深い才能にめぐまれている」と思っています。でも、左右や東西の区別が苦手だし、まっすぐな道でないと迷ってしまうし、難しい言葉を聞くと頭の中がゴチャゴチャになってしまいます。そんなリーコはある日、「高い才能にめぐまれた」オスカーと友だちになります。大都会を舞台にした冒険と、ミステリーの要素を合わせた物語。スピード感があり、ユーモアと人間への敬意といつくしみにあふれています。</p>					

59	バレリーナになりたい！				
	Ballerina Dreams	Thompson, Lauren 作 Estrin, James 写真	アメリカ合衆国	Feiwel and Friends	2007 Y17-B13383
<p>3歳から7歳の少女たちを追った、実話にもとづく写真絵本です。みんなバレリーナに強くあこがれていますが、脳性まひなどの障害のため、受け入れてくれる学校がありません。自らもダンス経験のある理学療法士のジョアン先生は、治療の一環としてバレエ教室を開設しました。先生は一人ひとりにきらきら光るティアラと妖精のつえを渡します。著者ローレン・トンプソンは少女たちがぐじけることなく練習を積み、筋力や柔軟性、平衡感覚を高め、自信をつけていくようすを描きました。1年後、小さなバレリーナたちは初めての発表会を迎えます。</p>					

60	冷たい手 暖かい心臓				
	Cold hands, warm heart	Wolfson, Jill 作	アメリカ合衆国	Henry Holt and Company	2009 Y8-B11162
<p>臓器移植がテーマです。14歳のアマンドはすばらしい体操選手でした。大会の競技中、演技はつつがなく進んでいましたが、アマンドが腕をまっすぐのばして鉄棒をまわろうとしたとき、予想もつかなかったことが起き、アマンドは床にたたきつけられました。アマンドは脳死と宣告され、両親は臓器移植について深く考えるようせまられます。物語には新しい心臓を切望する15歳のダニが登場します。重大な局面でふたつの家族がたどる運命と、この重要なテーマに関する事実を読者は知ることになるでしょう。</p>					

▶ 参考出品 布の絵本（ぐるーぶ・もこもこ制作）

- 1) 『うたのえほん』
- 2) 『こんちゅうえあわせ』
- 3) 『三びきのこぶた』

関連小展示のご案内

この展示会にあわせて当館所蔵資料による小展示を開催しています。

◇ **世界を知るへや〔1階〕** ※どなたでもご利用になれます。
子ども向けのバリアフリー絵本や読み物、知識の本を展示します。

◆ **第一資料室〔2階〕** ※18歳以上の方はどなたでもご利用になれます。日曜日は閉室します。
障害がテーマの絵本・児童書を調べるためのブックリストやブックトークの資料などを展示します。

◆ **第二資料室〔2階〕** ※18歳以上の方はどなたでもご利用になれます。日曜日は閉室します。
障害のある人を描いた本と、障害のある人にもわかりやすいように工夫された各国の本を展示します。

